

淀屋橋駅(地下鉄御堂筋線)⑤

幕末の大坂、新選組の痕跡と海舟の大坂海軍塾へ



「大阪あそび歩マップ集」
その2 No.099

淀屋橋駅(京阪本線) 大江橋駅(京阪中之島線)
本町駅(地下鉄御堂筋線・四つ橋線・中央線)

地下鉄・京阪淀屋橋駅

①千草(千州)屋跡

千草屋は江戸時代の大きな両替商のひとつで、新選組は軍用金の徴収のためにここに押しかけられています。慶応3年(1867)の日付のある土方歳三名義、保証人近藤勇の400両の借用証書が現存しています。店は幕末の混乱を乗り切れずに存続していません。

②適塾

医者・蘭学者・教育者である緒方洪庵が幕末の天保9年(1838)に開いた私塾です。門下生には大村益次郎、橋本左内、福沢諭吉、佐野常民らがみられ、幕末から明治にかけての日本の指導者を多く輩出しました。現在の建物は寛政年間の建立で、多くの刀傷の残る部屋もあります。国の重要文化財です。



③加賀屋四郎兵衛邸跡

元治元年(1864)、新選組は大坂商人に対して軍資金として金15万両の献金を要求していました。加賀屋は輸入品の唐糸反物を扱っていた大坂を代表する豪商で、同年12月に銀6600貫を近藤勇に提出しています。

④勤王僧・月照生誕地

▼ ここには昭和初期まで佛光寺別

院があり、文化10年(1813)僧・月照はそこで生まれました。京都に上って清水寺成就院の住職になりますが、隠居して尊王攘夷運動に身を投じます。安政の大獄で厳しい追及を受け、同時に追われていた西郷隆盛と一緒に鹿児島に逃げます。しかし薩摩藩は月照の入国を許さず、西郷と月照は抱き合って錦江湾に入水自殺を図ります。月照は絶命し、西郷は奇跡的に一命を取りとめました。

⑤大坂海軍塾跡(専稱寺跡)

元治元年(1864)、勝海舟は大坂の寓居先である専稱寺に、私塾の海軍塾を開きました。全国から有志を集め、坂本龍馬をはじめ

め土佐脱藩浪士、紀州藩士、鳥取藩士、福井藩士などがいました。塾頭は庄内藩出身の佐藤与之助。海舟は3カ月後には幕府の海軍操練所開設のため神戸に移り、私塾も神戸の海舟邸に移されました。

⑥大和屋弥七邸跡

土佐から江戸に出て砲術を学び、認められて勝海舟の門下生になった近藤長次郎は、同じ土佐藩士の坂本龍馬と仲がよく、龍馬とともに長崎で亀山社中を設立しました。勝海舟が専稱寺で海軍塾を開いていたころ、大阪に出て大和屋弥七の娘・お徳と結婚しました。

地下鉄本町駅

